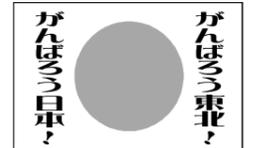




相田みつてる 市政報告だより

平成24年4月版 発行者：相田光照 米沢市塩井町塩野1670番地 Tel&Fax：0238-21-4185 090-9637-1834 Mail：saraborn@ms5.om.ne.jp



〈今回の紙面〉 1面

★相田光照
トップ当選
★米沢市議会
会派一覧
★農業委員就任

2面

★東日本大震災

★研修報告
・農業委員会
・一新会

★6月一般質問

★連載
「熱思爽颯」
「父と義父と
父の義父」

相田光照 トップ当選!

票 数 2999 票 得票率は、なんと69%! 塩井地区20年ぶりの市議誕生

4月24日に行われました米沢市議会議員選挙において、相田光照は皆様の心強いご協力と温かいご支援のお陰をもちまして、初当選をさせていただきました。公職選挙法での事後運動期間のため、今頃の御礼になつてしまい申し訳ありません。改めまして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

議員になって早4ヶ月が経ちました。議会という未知の世界を手探りで邁進し、その中で感じたことが3つあります。1つ目は、『責任』です。地域づくり・人材育

成という政策に多くの有権者の皆様が賛同してくださり、一票という「貴重な意思」を投じていただきました。「米沢市をもっと良くしてほしい」「将来安心できる街を創

2つ目は、『決断と決意』です。政治家に大切なことは、迅速な決断と決してぶれない決意が必要だと感じました。しっかりと自分の歩むべく道程を決断し、その決意を有権者の方々に説明できる人間にならなければならぬ。それができず、保身のために誰にでも迎合をする「八方美人・風見鶏の政治家」には間違ってもなりません。皆様へ意思をお伝えしていきたいと思ひます。



上：当選が決まって安堵の表情（4月24日、選挙事務所）=米沢日報社撮影
下：当選証書授与の様子（4月26日、議会委員会室）=議会事務局撮影

3つ目は、『熱い想い』です。私は、心のどこかに「多くの有権者を考え、幅広く政策を作ろう」という思いがありました。だからこそ、広く浅い知識になっていたように思ひます。しかし、最も必要なことは、政策数や広範囲なものではなく「私はこうしたい!」と

いう熱い想いなのです。その熱い想いがあった、初めて具現化すべく手段としての政策ができた。それを言葉にして皆さんに伝え、成すべきビジョンを示せることができると、私はこの4ヶ月で強く感じました。まだまだ駆け出しの一年生議員ですが、「一年

議会選出農業委員就任 常任委員会は『民生委員会』

5月18日臨時議会において、議会選出の農業委員に選出されました。初当選前期での議会選出の農業委員は、初めてですが、農業未経験の私ですが、消費者の立場と若い視点から、食育や後継者育成という課題に議員24名の代表として、議会という名を汚すことのないように精一杯頑張っていく所存です。常任委員会は、民生委員会に決まりました。育兒から高齢者政策まで幅広い分野ですが、とてもやりのある分野であります。こちらも注目してください。

また、予算特別委員会、決算特別委員会、議会倫理推進委員会にも所属しておりますので、よろしくお願ひいたします。

最大会派の8名 加入会派は『一新会』

2期当選5名・初当選3名の新生会派

当選して、実質的にわずか5日間。5月2日は、加入会派決定の期限でした。様々な会派からお誘いを受け、信条やスタンスについてお話を伺いました。私は選定にあたり、改選時に行われる議長選挙のためだけの会派結成

だけは反対でした。では、なにを求めたか?それは、4年間で「最大限に研鑽でき最大限に成長できる環境」であることでした。それに合致したのは、言うまでもなく一新会でした。

「一生懸命勉強している若者議員」というプラスイメージと「反市長」というマイナスイメージがありましたが、説明を伺ったときの一新会のみなさんは、地域や市民を一番に考え、米沢

を良くするという気概を持ち、新人だからできないという雰囲気を変えるという意志を持っていることを感じることで決まりました。その強い思いだからこそ、既存の市議会を知らぬ人々にはマイナスイメージに映ったのではないのでしょうか。そのイメージがあったとしても、この会派なら自己研鑽ができ成長できると考えたこと、また当時代表を務めていた島軒

純一議員が「みなさんは、今まで6名で構成してきた一新会に入会するのでなく、『新生一新会』を共に創っていくという

という言葉を聴き共鳴できたことも入会した理由のひとつでした。今思えば、本当に良い会派に入ったと皆様に自信を持ってお伝えできま

す。これからの4年間、私がおののけら成長できるとか観察していただきたく思ひます。下段に一新会のメンバーを紹介いたします。

市議会会派一覧

- 〈市政クラブ〉
 - 1 佐藤 義和 ④
 - 2 高橋 保広 ②
 - 3 小久我 徳雄 ③
 - 4 我妻 徳雄 ③
 - 〈米沢維新会〉
 - 5 木村 浩門 ①
 - 6 高橋 卓二 ⑤
 - 7 小島 卓二 ⑤
 - 〈日共産党市議団〉
 - 8 高橋 壽子 ⑥
 - 9 白根 澄子 ④
 - 〈自民クラブ〉
 - 10 藤 次人 ⑤
 - 11 遠藤 正 ①
 - 12 堤 郁 ①
 - 〈一新会〉
 - 13 藤 雄子 ②
 - 14 齋藤 千恵子 ①
 - 15 島 純一 ②
 - 16 海老名 悟 ②
 - 17 相田 克平 ②
 - 18 相田 佳寿美 ②
 - 19 相田 光昭 ①
 - 20 中村 圭介 ①
 - 〈公明クラブ〉
 - 21 山村 明 ⑧
 - 22 鈴木 章郎 ③
 - 23 山田 富佐 ①
 - 24 佐藤 弘 ②
- ※ 番号は議席番号
○ 数字は当選回数

『一新会』構成メンバー



工藤 正雄 議員



齋藤千恵子 議員



島軒 純一 議員



海老名 悟 議員



相田 克平 議員



渋間佳寿美 議員



中村 圭介 議員

日々、共に課題に取り組み米沢市議会を「見える議会」にしていきたいと思ひます。今後、注目をいただければ幸いです。

東日本大震災

被災地支援の必要性

甚大な津波の爪跡

『千年に一度の災害』
三陸へ与えたこの地震の被害は、まさにこの言葉が当てはまる、現実逃避をしましそうな大きな大きでした。

がんばろう、石巻!

多くの米沢市民の皆様が市内全域でのボランティア活動を行っていた時期、私はほとんど奉仕活動をするのがありませんでした。心のどこかに罪悪感が芽生え、「被災地ボランティアをする」という思いは、当選後の最優先活動として位置づけるようになりました。

その機会が6月1日に訪れました。洪間佳寿美議員のお誘いで、自民党山形県連青年部の被災地ボランティア活動へ、急遽飛び入りで参加させてもらいました。県内各市町議員の方々と約20名で石巻市に赴きました。

私の目に飛び込んできたのは、道端に寄せられた



津波により焼失した小学校(6月1日、石巻市門脇で) 相田光照撮影

我々が継続していかねばならない支援があるはずだと、強く感じ得ました。

皆さん、今後私たち議員が支援をお願いし、共に手を携え歩んで頂く時が来るやもしれません。そのときは、どうか私たちに力を貸していただき、一過性に終わらない継続した支援をして頂きますことをお願い申し上げます。

当選して初の定例会議が6月13日(30日)まで開催されました。報告11件、議案6件、請願2件が審議されました。人生初の定例会議では、16人中15番目の登壇で一般質問を行い、選挙中訴えてきたこと、市政への思いなどを質させていただきました。議場という神聖な場所で行う質問は、経験な

き緊張感に包まれ、冷静に当局に聞くことはできなかったと思いました。まだまだ経験不足、自己研鑽を積み重ねなければなりません。ですが、今回の質問でも「若者育成支援法」については、今年度中の協議会設置を検討するとの答弁を頂いたことは、大

きな収穫のひとつでした。質問詳細は、写真左側に掲載いたしますのでご覧ください。

また、私の質問時にお忙しい中、傍聴に来ていただいた皆さん、本当にありがとうございます。次回は、12月を予定しております。反省を生かして、深みのある質問をしたいと思っております。

6月議会報告

緊張の一般質問

青少年育成について



初の一般質問の様子(6月20日、市議会会議場で) 議会事務局撮影

A. 今後のガイダンスプロジェクト事業をどのように考えるか?
Q. 成果は出ているものの課題もありません。不登校要因も増加し、対応は難しくなっています。不登校数が減少したとはいえ発生率は依然高く、本事業を継続・拡充していくことは必要であると考えております。

どのように進めていくか?
Q. この法律の目的は、次世代を担う子どもや若者を育成支援する施策を推進するものであり、対象は不登校・ひきこもり・未就労者など対象年齢を30歳まで幅広く想定されています。内容が広範囲なことを踏まえ、関係機関との連携、市関係部課との調整を図り、関係機関により構成される「子ども・若者支援地域協議会」の設置に努め、対応を検討していきたいと考えております。

▼父と義父。同じ年齢で私の結婚後は、二人で杯を酌み交わす仲であり、酸いも甘いも知り抜いた。 産んでくれて、本当にありがとう。ここまで育ててくれて、ありがとう。

「父と義父と父の義父」
2011.09.11
▼「ありがとう」
生徒達に必ず言わなければならぬと、教え続けた。この言葉を素直に家族に言えない、反省して否定することなく受け止める、的確で安堵の応えを返してくれた。

▼父は、仕事の合間を縫って、知り得る知人に足を棒にし共に歩き、頭を垂れてくれた。

▼父は、本当に幸せな人間だと感じた。ずっと意志を貫き通し、ずっと意思を言葉にして伝えた。今回の選挙、正直、心が折れそうにならなかったわけではない。その「身体」に手を携えてくれた父、その「精神」を支えてくれた義父、その「心」に磨きをかけてくれた父の義父。

▼私の心中に、随処作主という強い気持ちを教えた。一日のやり残しはせぬよう、そんな人生を歩まねばと、祖父の死が私の教訓となった。

▼父と義父。同じ年齢で私の結婚後は、二人で杯を酌み交わす仲であり、酸いも甘いも知り抜いた。 産んでくれて、本当にありがとう。ここまで育ててくれて、ありがとう。

先進都市に学ぶ

農委・会派研修会

6月8・9日は、農業委員会が富山県砺波市へ研修へ行ってきました。今回の研修は、耕作放棄地(耕作をやめて約1年)・遊休農地(耕作をやめて1年以上)解消対策についてでした。砺波市農業委員会では、荒廃した

耕作放棄地または、遊休農地の問題は、米沢市においても重要な問題になっていきます。今年、市農林課・農業委員会では、万世地区においてモデル事業を予定しております。今後注目をいただければと思います。



研修会の様子(6月8日、富山県砺波市で)

一新会では、7月6日・7日に東京都で行われた「第13回都市経営セミナー」に参加してきました。牧野飯田市長、松浦松江市長などを講師に迎え、「これからの広域連携」についての話しは、傾聴すべきものでした。

内容は、少子高齢化により若年層人口が減少していく中での広域行政のあり方、合併ではなく協力という形で先進的取り組みをしている飯田市(郡単位)と松江市(中海を中心とする単位)の事例など。米沢でも置賜広域行

政事務組合において、広域連携を行っています。来々4月からは、消防行政も広域化になります。今後、過疎化が進む将来に向けて、行政・財政、そして議会観点からも今一步、広域連携を考えてみたいと思っております。



広域連携について(7月6日、日本都市センターで)